

相模国準四国八十八ヶ所 寒川町 巡礼路

第62番・73番札所 西善院 (さいぜんいん)



大師小堂は西善院山門左手にあります。
 62番は、元 薬王寺(現在の寒川神社境内(東部分))にありました。慶応4年(1868)神仏混淆廃止により、西善院に移されました。62番は左側(文政3年11月吉日)という説があります。「千はやふる 神の宮山 さむ川の ふかき 恵みは 身にぞしみける」
 73番は、元 神照寺にありました。明治2年(1869)、神仏分離令、廃仏毀釈によって廃寺となり西善院に移されました。「宮山にほふ朝日は たまちはふ 神のてらせる かがみなるらん」

第6番・71番・75番札所 安楽寺

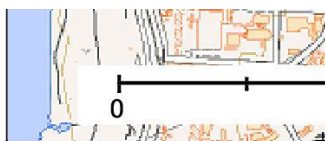


山門を入り左側にある大師堂に6番、71番、75番の弘法大師石像三体が安置されています。
 左75番は元 宝塔院にありました。明治40年(1907)廃寺となり安楽寺へ移されました。「民草に 露を岡田の うるおひも さながら法の めぐみなりけり」
 中央6番は安楽寺の像です。「後の世と おぼつかなくも このみしか この世からこそ 安くたのしき」
 右71番は元 観護寺にありました。明治37年(1904)廃寺となり安楽寺へ移されました。「この寺の みのりをあふぐ 民草を ゆたかにまつれ 山もおか田も」

第83番札所 南泉寺



元は城山地蔵堂にありました。城山とは、梶原景時の館があった所と云われ、その館址は天満宮の小公園となっています。
 大師石像は明治の神仏分離令により、南泉寺に移されました。「法の露 むすべばすぐに ゆうたすき かけしちかいは 一之宮かな」



第14番札所 大曲共同墓地内



元 地蔵堂(東福寺持)にありました。今 地蔵堂はなく、共同墓地になっています。大師石像は、共同墓地の一角の小堂に六地蔵と共に一番右端に納められています。「大まがり まがる心の人とても すぐにみちびけ 六のちまたに」

「相模国準四国八十八ヶ所」とは

鶴沼村の浅場太郎右衛門親子が発起して、文政3年(1820)~4年、四国八十八ヶ所を倣い、鎌倉・藤沢・茅ヶ崎・寒川・横浜へ弘法大師石像を設置し、巡礼地としたものです。
 寒川には10カ所の札所がありましたが、現在残っているのは9カ所です。

第15番札所

元 等覚寺(東覚寺とも)(現岡田4丁目)にありましたが、明治37年(1904)安楽寺に併合されたのに伴い、大師石像は茅ヶ崎円蔵寺へ移されました。山門を入り、左手に六地蔵があり、その奥、塀沿いの樹木に囲まれた中にあります。「海ならぬ 岡田のあきの うちなびき みちもなぎさの 波とこそみえ」



第64番札所 大蔵(おおぞう)共同墓地



元は弥陀堂にありました。今 弥陀堂は無く、共同墓地になっています。大師石像は入口の小さなガラス張りの堂に納められています。「ととしに あきのみりの 大蔵と かねてつけたる さとの名にもや」

第54番札所 景観寺



文政4年(1821)南泉寺に置かれ、文政5年、景観寺へ移されました。大師石像は景観寺山門を入り正面本堂の右手前にあります。「つくりなす つみのおも荷も みほとけの 誓にかるの いちのみやかな」

第55番札所 玄珊寺(げんさんじ)



大(応)神塚
 全長約51m、5世紀代の前方後円墳。
大塚古墳公園
 古墳時代後期(7世紀ころ)の古墳の石室及び周溝が発見された。
高安善塚
 [伝説]下寺尾の七堂伽藍を焼き払って処刑された尼僧を供養する塚。
七堂伽藍跡(下寺尾廃寺)
 7世紀末から9世紀前半にかけての巨大寺院。
十三塚
 室町時代ごろに造られた供養塚と考えられています。
中原街道
 平塚市中原から江戸へ通じる道。
宮山遺跡
 弥生時代後期(3・4世紀ころ)の方形周溝墓が8基確認されています。